

★☆☆ポイント☆☆★

◆◆◆特集◆◆◆

特殊車両通行許可制度について

(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

道路法第47条の2に規定されている特殊車両通行許可制度は、近年の道路ストックの延命化の社会的要請や国民の安全・安心への意識の高まりなどを踏まえると、今後ますます重要性が高くなるものと考えられます。本制度制定の経緯、通行許可の現状や最近の運用の変更点などをご紹介します。

◆◆◆道路占用Q & A◆◆◆

鉄道の道路占用について

鉄道線路を道路に敷設する場合の手続き等について解説する。

◆◆◆TOPICS◆◆◆

しまなみ海道開通10周年記念事業について

～花とアートでつなぐ人・島・未来～

(本州四国連絡高速道路㈱)

“自転車や徒歩でも渡れるしまなみ海道”として、多くの皆様に親しまれてきたしまなみ海道は、今年5月に10周年を迎えました。

これを記念して、「花とアートでつなぐ人・島・未来」をテーマに4月から半年間、多くの記念事業が開催されます。この機会に、多くの方々がしまなみ海道に訪れていただくことを期待しています。

◆◆◆地域における道路行政に関する取り組み事例◆◆◆

●新潟市における自転車通行環境整備事業の実証

(国土交通省 北陸地方整備局 新潟国道事務所 交通対策課)

自転車は、日常的な短距離移動において利便性が高く、環境に優しい交通手段として、利用促進が期待される一方、自転車に起因する事故が増加している。新潟国道事務所では、自転車道を整備するとともに、通行者の自主的な行動による分離を推進する社会実験を実施しました。

本稿では、整備を行った自転車道と社会実験における改善効果の実証を紹介します。

## ●雪国独特の落氷雪事故防止と橋梁長寿命化の取り組みについて

(北海道 建設部 土木局 道路課)

北海道では、雪国の道路管理者であれば避けて通る事の出来ない問題の一つである「沿道建物等からの落氷雪を防ぐための取り組み」と、高度経済成長期に建設された橋梁が、今後本格的な更新時期を迎えることから、更新費用の平準化やライフサイクルコストの縮減を図るための「橋梁長寿命化の取り組み」について紹介します。

## ●～生活道路の除排雪について市民と共に考え・行動する

=====『地域と創る冬みち事業』の推進について=====

(札幌市 建設局 管理部 雪対策室)

### 事業概要

この事業は、札幌市の除排雪の仕組みや道路除雪の現状を理解していただき、地域と行政・除雪事業者の三者より、市民生活に特に関りの深い生活道路除雪について話し合う「地域と創る冬みち事業」を取組んでいます、主に町内会単位による市民懇談会をワークショップ形式で行い、地域の除排雪課題や改善方法などを話し合い、できる対策から協働・役割分担により実行し、より良い冬の暮らしの実現を目指しています。

## ◆◆◆お知らせ◆◆◆

(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

『また歩こう そんな気になる 道がいい』

～平成21年度「道路ふれあい月間」推進標語決定！～

国土交通省では、「道路ふれあい月間」の行事の一環として、改めて道路の意義・重要性について考えて頂くことを目的に、推進標語を広く一般から募集しました。審査懇談会における厳正な審査の結果、応募総数 6,710 作品の中から、最優秀賞 1 作品、優秀賞 5 作品の推進標語が決定しました。

## 編集後記

一昔前、カーナビは珍しいものでした。これは、そんな時代に、わたしが夏の北海道ドライブ旅行に出かけた時のお話。

当時、レンタカーにはナビなど搭載されておらず、観光地巡りや宿泊地までの道のりは、ガイドブックや観光協会でもらった地図が命綱…なんて書くと大変そうに思えますが、これが案外楽しいもの。それまでに何度か北海道旅行をしたことがあったものの、自分自身で運転しながら各地を回るといふ旅はこれが初体験。車の窓を全開にして牧場のさわやかな空気を感じ、たまに道に迷いながら広大な田園風景に目を休ませる。これはこれで贅沢です。

初日、新千歳空港から北海道入り。最初に目指すは、なんとと言っても富良野・美瑛。ロードムービーのような直線の道路を気持ち良く走りながら、富良野では遅咲きラベンダー、美瑛ではパッチワークの田園風景を堪能して旭川入り。火傷と戦いながらディナーの旭川ラーメン（美味しいけど熱い！）を平らげ、そのまま旭川で一泊。

翌日は、阿寒富士にあるオンネトー湖を目指します。この湖は、太陽光の照射角度により湖面の色が変化するという幻想的な場所でも有名。しかし…旭川から移動するためには大雪山系を迂回しなければならず、なんと約 300 kmの道のり。北海道はデッカイドウ（？）などとアホなことを思いながら、道中、所々で地図を眺めて目的地に向けてドライブ。すると、途中に「世界最大級のからくりハト時計塔」で有名な道の駅があることを発見。地図頼みならではの偶然の出会いです。ハト時計に興味はなかったものの、「世界一」と聞けば寄りたくなるのが人情。その道の駅で遅めの昼食を済ませて見学。そんなこんな寄り道三昧で、なんとか太陽の出ている時間にオンネトー湖に到着できてホッと一息。歩くにつれて湖面の色が変化する神秘的な光景に大感動。

この日は、旅の疲れを癒す目的も兼ねてオンネトー湖付近の温泉宿を予約済み。

さすがに寄り道が過ぎたのか、辺りも暗くなり、宿へのチェックインが遅れそうな気配。仕方がないので旅行会社からもらった行程表を確認しつつ予約先に電話。電話口の向こうから「おんねゆ温泉●●旅館です」と女将の優雅な声。何だろう、この違和感…おんねゆ温泉…違う、私が泊まるのはオンネトー温泉。電話番号は間違っていない。手元の行程表には確かに「オンネトー温泉」と書いてある。そう、確かに「温根湯温泉」と書いてある…背筋が凍る…「オンネトー」…「温根湯」…日本語って難しい。大慌てで地図帳を広げてオンネトー湖周辺を調べてみるも、温根湯温泉がどこにもない。しばらく地図と睨みあっていると、ありました「温根湯温泉」。なんと、オンネトー湖から遙か 100 kmのかなた…。地図との格闘でいつの間にか周囲は真っ暗の中、空腹とショックの状態でも必死に法定速度（？）で運転。へろへろになりながら、やっとのことで温根湯温泉付近にたどり着いた時、衝撃的な光景が！「道の駅 おんねゆ温泉」の看板。なにやら巨大な時計塔…んっ？…からくりハト時計塔？…今日ランチをした場所…？…看板は漢字で書けて！(笑)

ハードウェアとしての道路網、ソフトウェアとしての高度なナビゲーションシステム。一

昔前よりも、より早く、より簡単に目的地に到着できる世の中になりましたが、こんな便利な道具があっても、私は同じ過ちを繰り返す気がします。結局は、道路にしてもナビにしても、利用する人間次第といったことでしょうか。

「人生はアップで見ると悲劇だが、ロングショットでは喜劇だ」との名言はチャップリン。人生と同じで道に迷うこともまた旅の一部。当時は顔面蒼白でしたが、今となっては旅の良い思い出です。遠くない将来、人間は運転しなくてもいいなんて時代になるかもしれませんが、是非とも「迷子機能」が欲しいところです。(U)